

☆☆めざす児童像：「気づく子 学ぶ子 元気な子」☆☆

大村市立大村小学校
学校だより

感じて動く

文責：校長 高木 修
令和5年8月9日 No.9

☆☆子どもが「喜んで登校し 満足して下校」する学校づくり☆☆

◆ 1学期に頑張ったこと・できるようになったこと

※ 1学期の終業式で、代表で2名の児童が発表をしました。



私が1学期に頑張ったことは三つあります。一つ目は「自分から進んであいさつをしたこと」です。1年生の時は、あいさつをされてから小さな声で返していました。私は、2年生になったら、1年生のお手本になりたいと思ったので、勇気を出して大きな明るい声で、自分からあいさつをしてみました。すると、上手なあいさつができました。やっぱり、勇気を出して強く思ったら何でもできるようになると思いました。あいさつをされた人は、笑顔と勇気、元気をもらって、頑張りたいという気持ちになると思っています。私も、あいさつをされるといい気持ちになります。だから、教室の中でも廊下でも、いろんなところで、いろんな人にあいさつをして、みんなの元気と笑顔がいっぱいの学校にしたいです。そして、あいさつ名人になりたいです。二つ目は「気配り」です。廊下の本を並べたり、バケツを片付けたりしています。この前、私は、気配りをするのは楽しいと思えました。気配りをするには、まず気づかないとできないので、周りを見回ります。そして、気づいたことがあれば、気づいたことをします。誰かがしたら、みんながいい気持ちになります。だから、楽しくなって、もっと気配りをしたいと思えました。三つ目は「反応」です。発表した後に反応してくれなかったら、発表した人が聞いてなかったのかなと心配してしまうので、反応は大切だと思います。でも、逆にみんなが反応してくれたらうれしいです。授業中にみんなで反応すると、他の人の考えを聞くことができ、勉強がもっとわかるようになると思います。2学期に頑張りたいことは、時間を見て行動をすることです。1学期は、1分前着席だと気づかなかった日がありました。2学期は、休み時間に何かしている途中でも、時間を見ながら行動することを頑張ります。2学期は、運動会があったり、勉強がもっと難しくなったりします。友達と協力しながら、いろんなことに挑戦していきます。



(2年 M.Yさん)

ぼくが1学期にできるようになったことや頑張ったことを四つ発表します。一つ目は「くん・さん付け」です。4年生の4月は、「くん・さん付け」をせずに人に声をかけていました。だめだと思ったけど、なおそうと思っても無理でした。でも、大切なことなので、ずっと覚えておこうと思えました。4月



はなかなかできずに悔しかったけど、5月からはきちんと「くん・さん付け」ができてよかったです。これからも続けていきたいです。二つ目は「反応」です。最初は

「わかりました」「同じです」「他にもあります」しか言えなかったけど、いろんな反応をした方がいいと教えてもらいました。「反対」「賛成」「〇〇さんの言いたいことを発表します」「質問します」「よくわかりません」など、練習すると、いろんな反応ができるようになってよかったです。三つ目は「仲良くすること」です。前はずっと仲良くできなかったけど、差別をしてはいけない、誰とでも仲良くすることを意識してやったら、できるようになりました。四つ目は発表です。途中までしかできなかった時は、発表できなかったけど、最後までできていなくても、恥ずかしくがらずに発表することができるようになりました。発表をたくさんすると恥ずかしくなくなってきたです。2学期も、この四つを続けてい

きたいです。

(4年 M.Wさん)



◆ 登校日中止



台風6号接近のため、9日の登校日が中止となってしまいました。平和集会が実施できなかったこともですが、子どもたちの元気な姿を見ることができなかったことが残念でした。でも、安全第一なので仕方ありません。夏休みも前半が修了しました。後半も、健康・安全に気をつけ、元気に過ごしてほしいと思っています。なお、平和集会は、2学期はじめ（29日）に実施します。

6日の広島での平和記念式典をテレビで観ました。小学生が発信した『平和への誓い』が心に残りましたので紹介します。

みなさんにとって「平和」とは何ですか。
争いや戦争がないこと。
差別をせず、違いを認め合うこと。
悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。
身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。
耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。
皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。
子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、叫び続ける母親。
たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」
仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。
原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、
生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年経ちました。
今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。
「生き残ってくれてありがとう。」
命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。
自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。
友だちのよいところを見つけること。
みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。
被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。
身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。
誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年（2023年）8月6日

子ども代表 広島市立牛田小学校 6年 勝岡英玲奈（かつおかえれな）
広島市立五日市東小学校 6年 米広朋留（よねひろともる）

◆ ドローン撮影

Congratulations on your 150th anniversary



創立150周年の記念事業の一つとして、ドローンでの撮影をします。
運動場・校舎を空から撮影するのですが、せっかくなので、子どもたちで「人文字」を作りたいと思っています。運動場に出て、右の文字を作ります。

撮影日は8月29日（火）1校時です。

《雨天時は30日（水）》

※撮影した写真をクリアファイルに活用します。

大村小
150

